

鄆林泉名勝圖會
三



部内	卷号	期	頁	格	有
	五	一	三		

都林泉名勝圖會卷之三

目錄

- 清水寺 蘇高石 朝鮮石
- 延命院 振袖石 水梯
- 歌中山 要石
- 蓮華王院 竹馬井
- 善源院 竹馬井
- 月輪
- 虫干圖
- 萬壽寺
- 虎園禪師趾
- 正徹墓
- 同西門圖
- 田村凡田橋 香月名所
- 香壽院
- 若松池
- 燕子花遊宴圖
- 智積院
- 東福寺
- 三登寺
- 靈源院 北殿 月古添
- 正統院 觀紅楓圖
- 通天橋
- 成就院 湯屋谷 烏帽子岩
- 宝生院 靈山 国河堂 春河山 遠家
- 浮瀨 南藏院
- 阿弥陀峰
- 法住寺殿古蹟
- 聊塚觀和蘭人
- 什寶
- 島燈爐
- 海藏院
- 栗棘菴
- 即宗院





清水寺
西門

探遍草花路
幾又紅楓相
映醉中斜高
臺寺裡逢疎
雨清水山前
看落霞
橘洲烟鎖

都林泉名勝圖會卷之二目錄終

自然居士墓
同記
南明院
北殿司墓
法少納言古墳
墨深里 有馬編后
豐太閤霸跡

靈雲院
正覺院
俊成卿墓
南昌院
舍人親王陵
梅溪 桃山新普光寺
龍德菴

遺愛石
莊嚴院
同女墓
清原深善父趾
稻荷初年圖
伏見山
慶雲菴

双城石
若石

清水成就院

相石延代
小治遠州
補也

吉原



朝鮮

其一

抵樹籬低畏竹
回院庭幽豁俯
溪隈誰知雲嶂
藤蘿翠還映
皇城霞綺開

百々肇



成務院

其二



施園何必布黃金，
泉石昂同長者心。
披對千今知出世，
一庭樹可足祇林。

新羅詞





若羽山清水寺の洛東の佳境也 候成天皇の宸筆東寶記五國家

鎮護の爲官府に賜て印一面とあり長財とを乞ふとあり額

侍従之絶言行成の筆と著聞且之を縁起の歴代編年集成に著し

堀川院ありりきりゆひ一七日宿したまふ事元亨教書ありと檀那

坂上之宿禰田村齋鈴麻山の鬼神退治の事 富山の縁起に見えく外の

實録聞えは悪七き清宗法主馬盛之の靈験平家物語の長門平の詳なり

地主の極むむしり名高く古跡多く若羽院の四時増減かく法例あり

て所謂五名水の其一と拾芥抄あり清水寺五十景あり

古崖懸泉 春巖開花 音羽疊翠 靈鷲疎鐘 洛陽萬戸

鴨河一帯 東郊烟雨 西門遠眺 宕嶺晴雪 龜阜暮靄

新撰朗詠 清水寺上方迎春 正通

烟霞隔路 三千界花柳藏城十二衢

自然齊發句集 余かちり 花びとたんと 深山うか 宗液

第五橋東山路斜 飛泉吹雪梵王家 太平有象遊人喜 清水寺 天隱

乱后初看地主花 提冲池言物語云

杖あるそりきき水にこりりく竹し風竹あわらうみふた多

きの葉ほろくと池のうはまふつれをまたとみちか 一月の

のすふふ戸わくちりしとさたりん

はと身つしあれたものとうたとの原ちる本葉をそと

池の若しうばらん若ふ物あをれゆる頃且も習ふか

たりと一礼とそくへうたうか清水寺の池乃とる系

とうとするかたのふれうをれつて心ゆくを清水乃乃池

境内成就院の林泉の名をそとて相阿弥の化後小堀遠州修補あり

所之掘油のち水鉢難者石鳥帽子石の頂摩浦よりとく平後次

飛石五つの名石に加藤清正朝鮮より取歸りてあふ小斎附次湯

を漢の秀吉公あふ遊ひゆく時浴室を建られ古跡之今中身の形

遺より護摩堂の東福門院の浄土附よりを造る洛東の妙境也

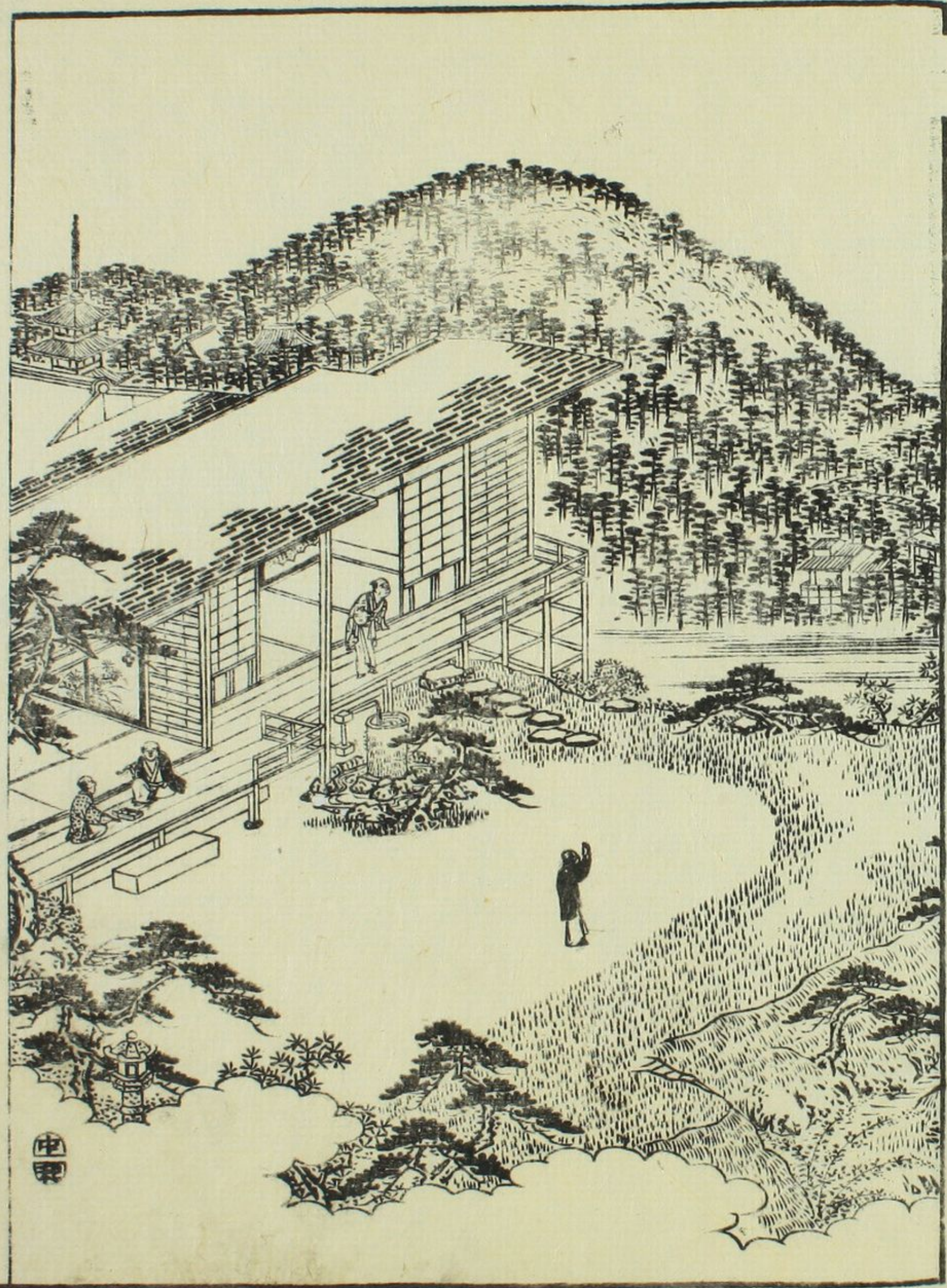
しく遠近も美系と連ひたり又同境室生院の客殿の往昔

幽地客尋
 稀芳花空
 掩扉春風
 吹去處暮
 作白雲飛
 梅華仙



清溪
 寶生院





中東

清水
延命院

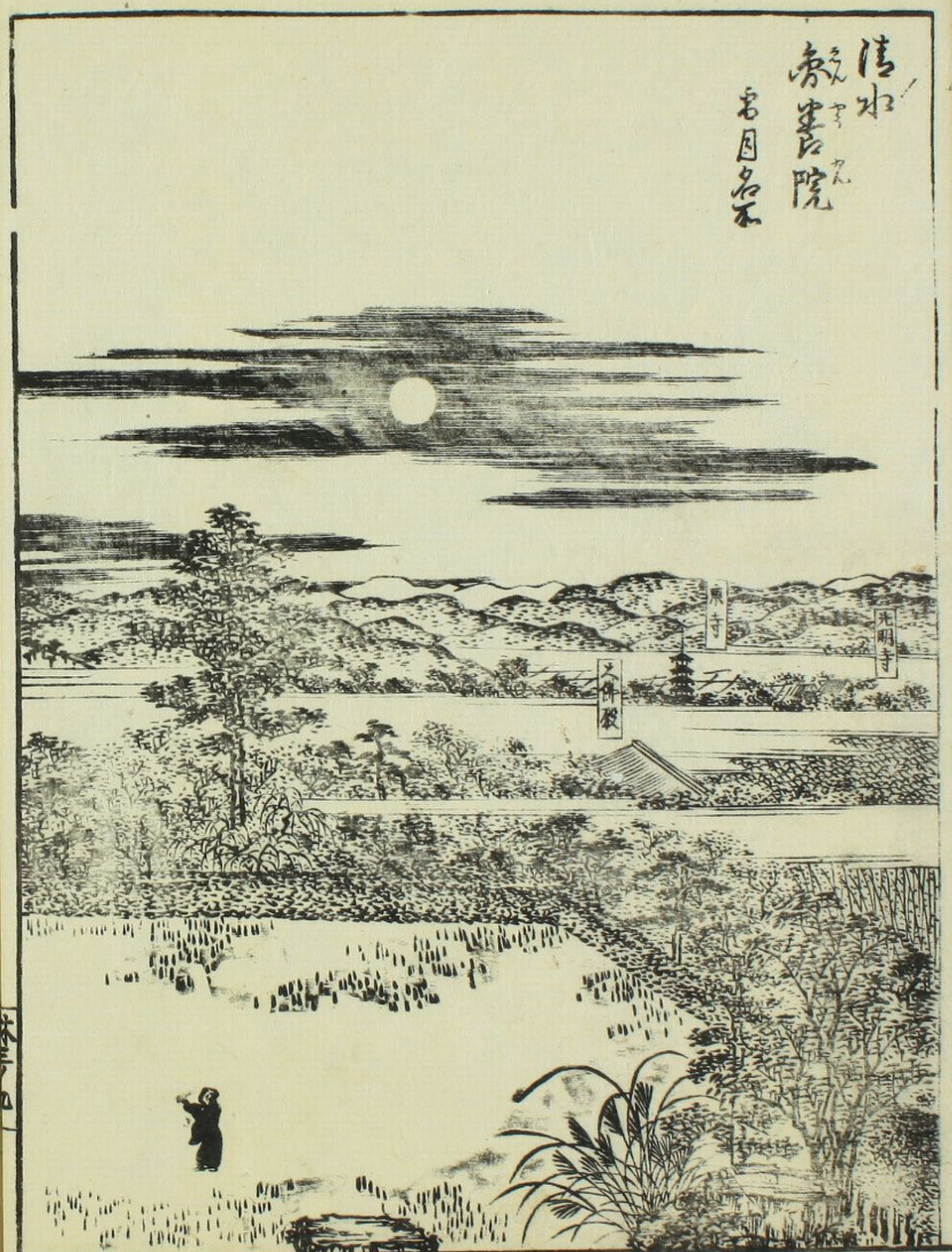
緩步哦詩訪寶坊，
 百花歷亂送斜陽，
 羽峯吐月飛泉戲，
 鳥野鏗霞遠樹蒼，
 信求圓通感懷起，
 迷窺色界似相藏，
 乃公能為憐苦輩，
 還使塵躬想淨疆。

龍州盧女孫
 熊谷氏貞蘭



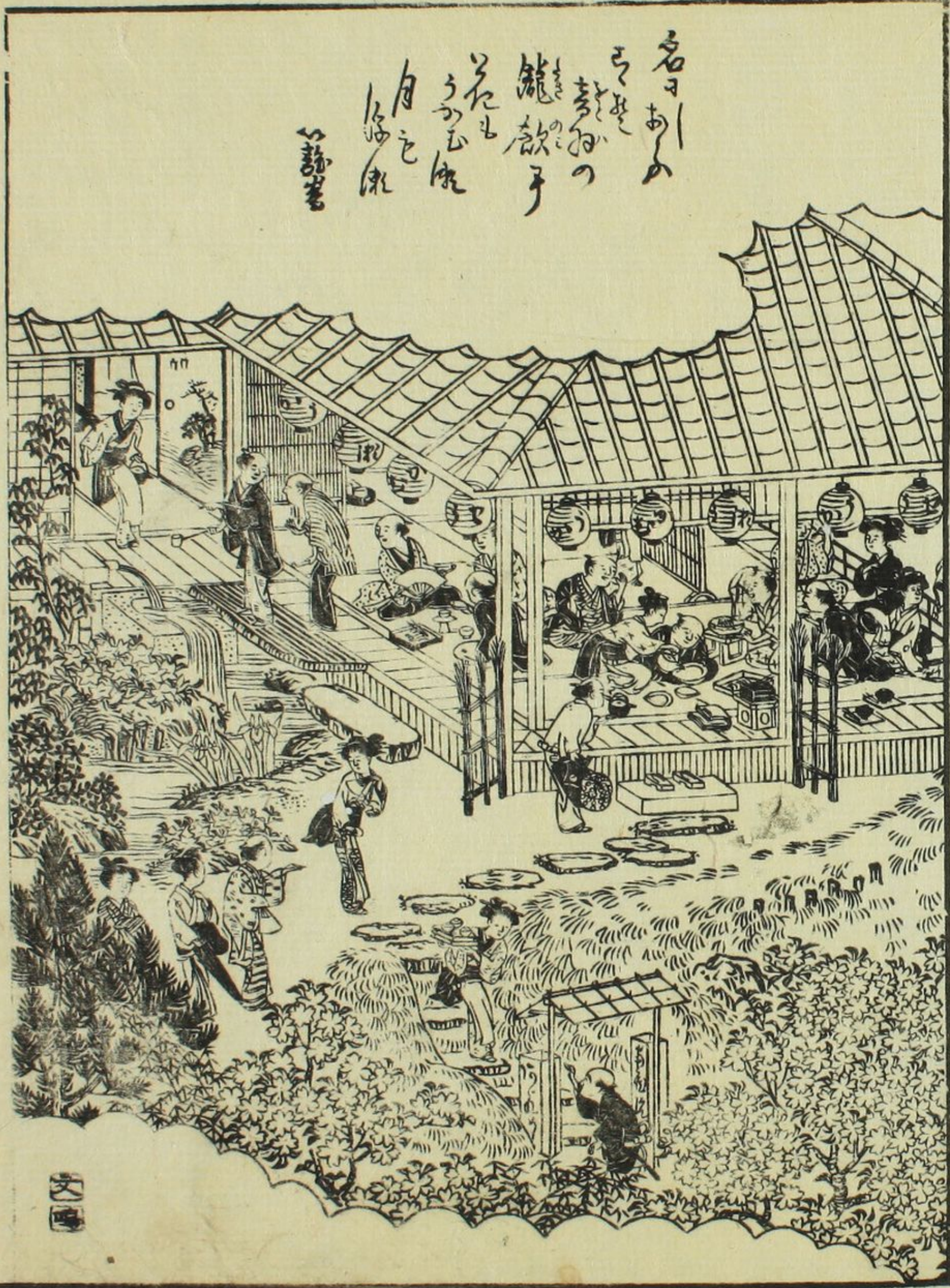


對月
 ありて
 新しや
 果々
 かきし
 月小
 里寺
 延

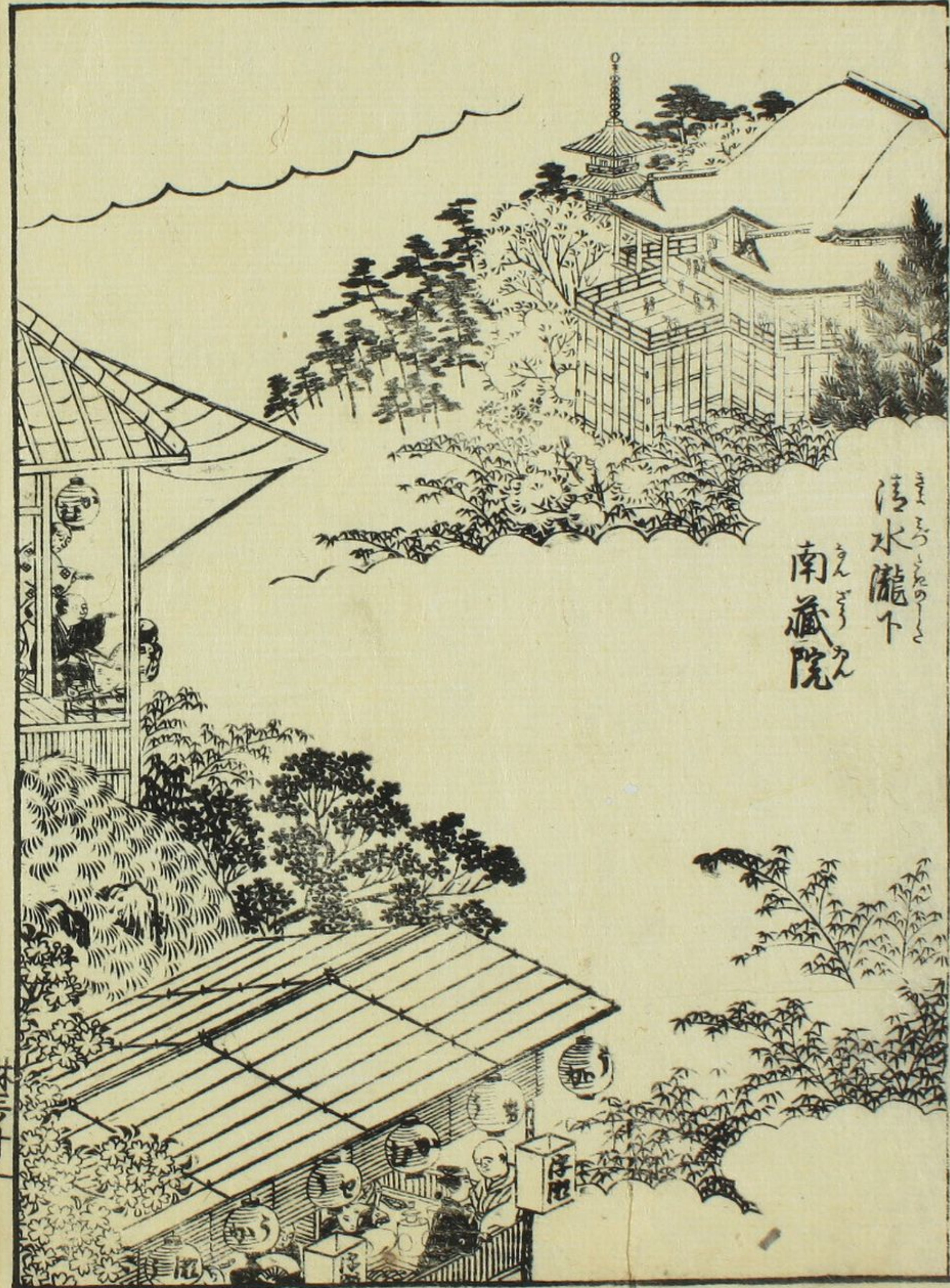


清水
 院
 名目

名々あり
 らむ
 籠飲子
 うらも
 うらも
 月也
 月也
 心静也



文
 四



清水瀧下
 南蔵院

歌中山
清園寺



秋興

夕ぐせの
心ゆく草花
あそび
秋の目録
うさぎ

巻延

州
俱





啗蘭人
觀耳協

豐氏西征計
策完凱旋曾
此築京觀
蘭入貢太平

日猶使

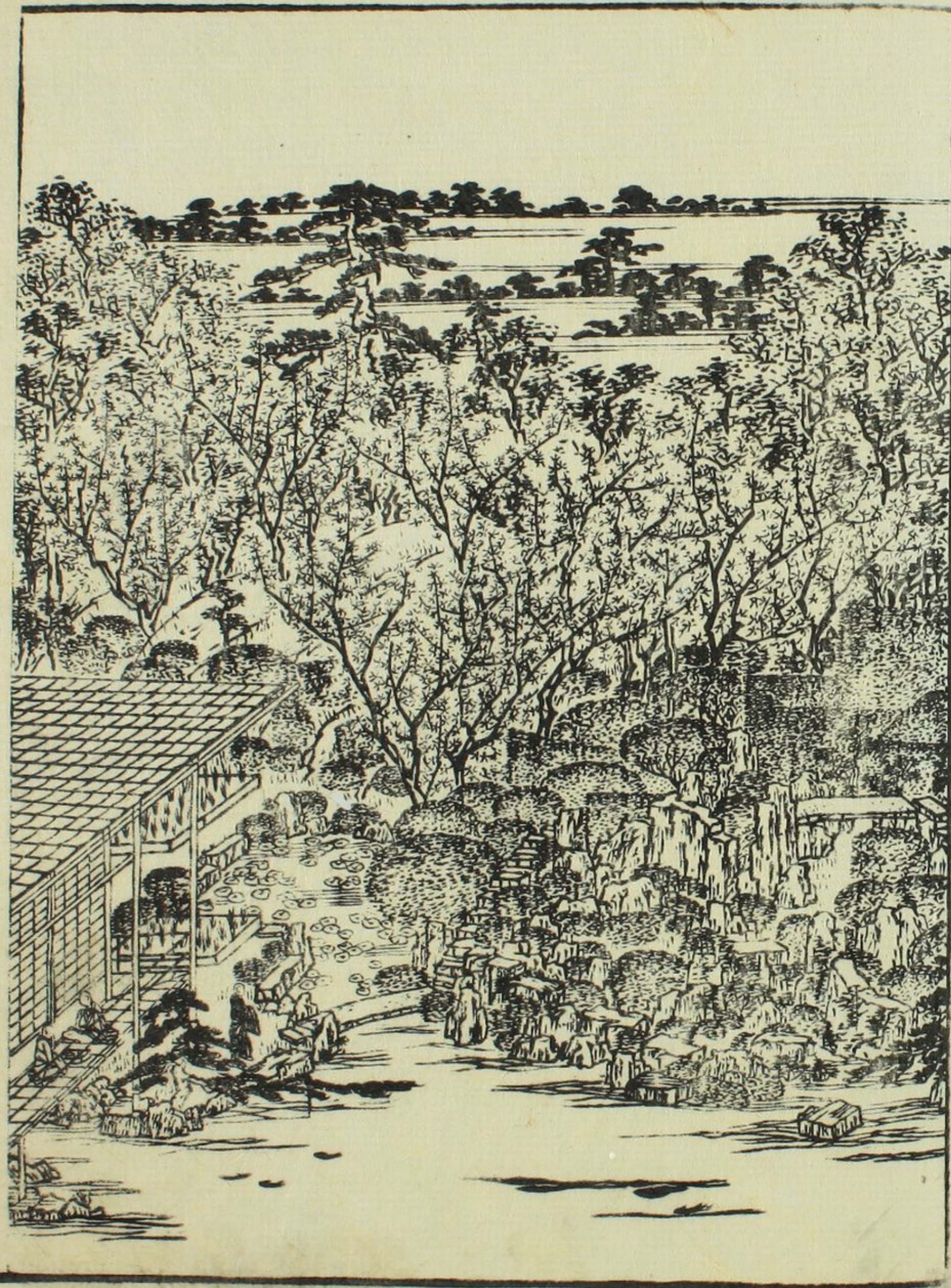
肱人

寒膽

鶴橋

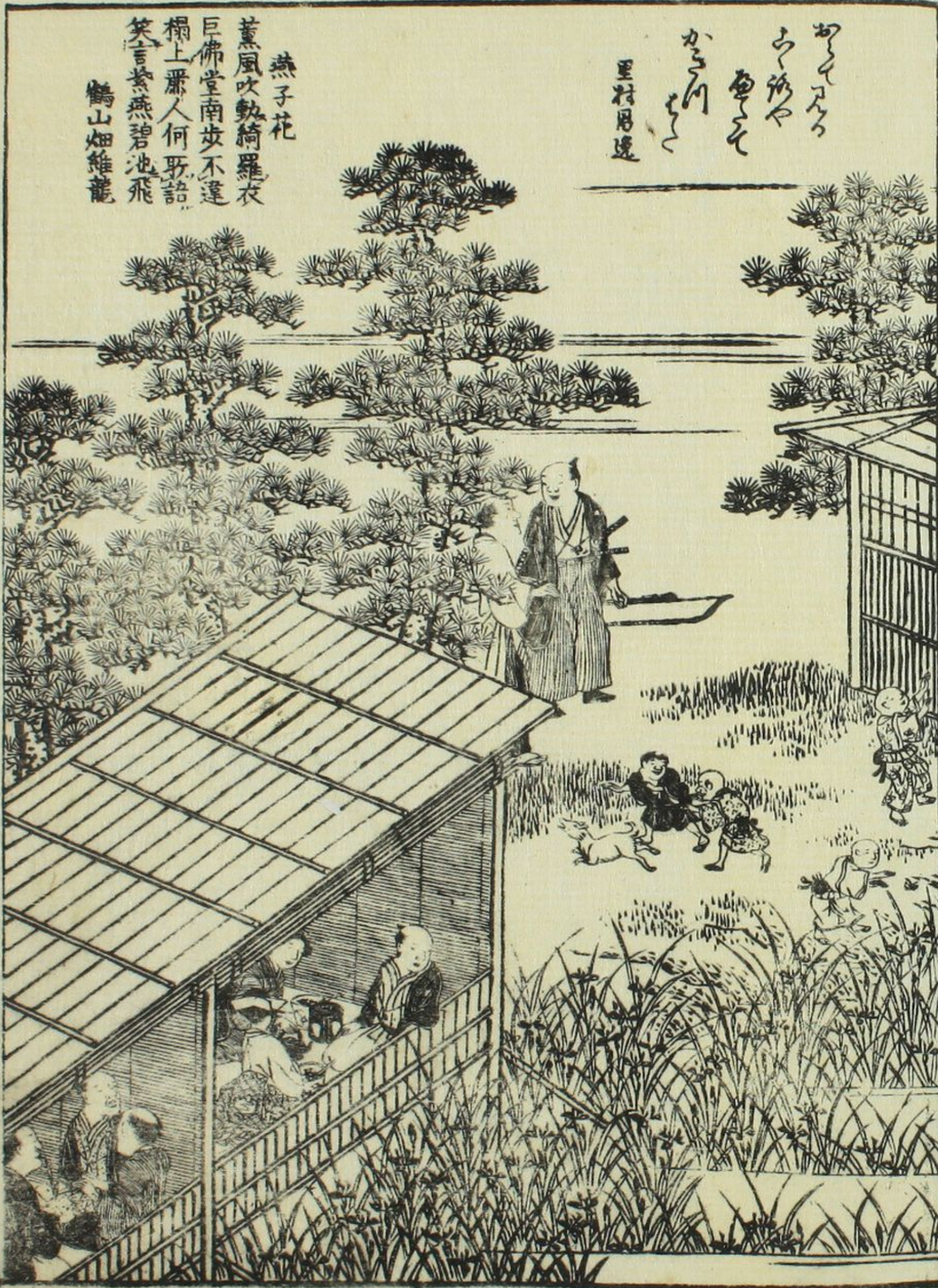
柚木太淳

丙



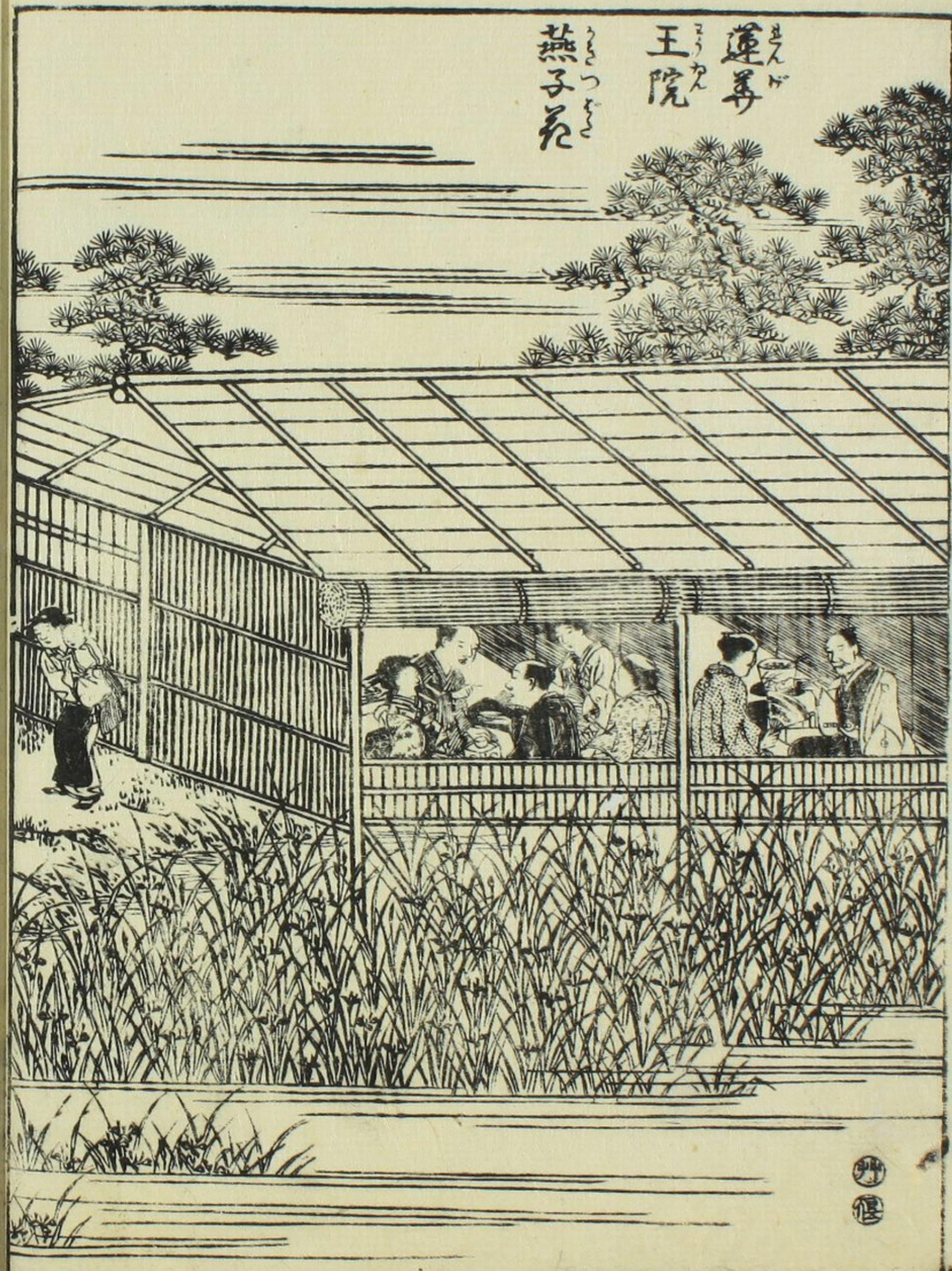
智積院





燕子花
薰風吹熱綺羅衣
巨佛堂南步不違
榻上番人何野語
笑言於燕碧池飛
鶴山烟維龍

かきくろ
かきくろ
かきくろ
里村用遠



運善
王院
燕子花

小幡遠州作



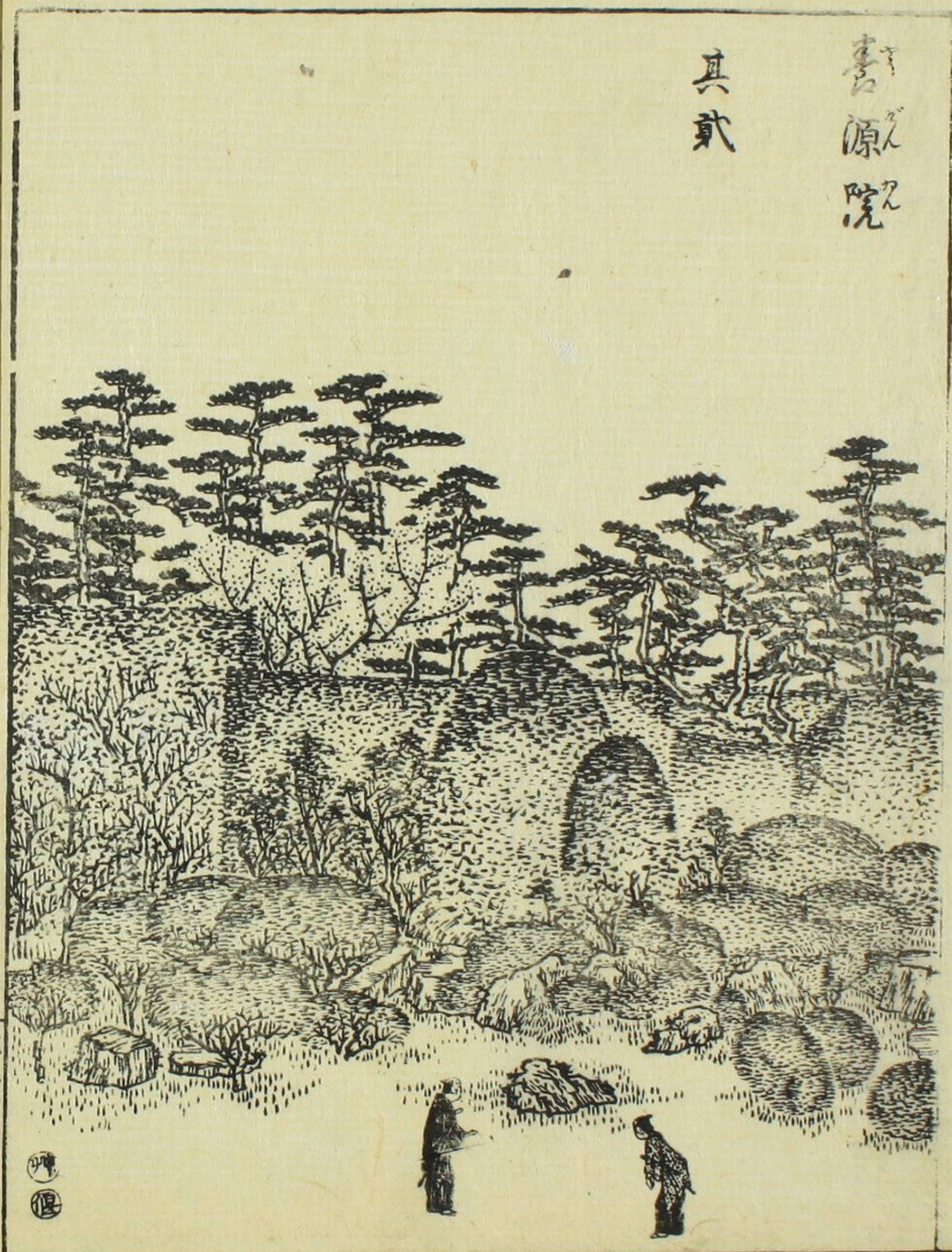
其一

善光源院



喜源院

其二



智積院

智積院の東にあり真言秘儀此院基正憲法印は地初ハ豊大
寺子葉君菩提の石小創建ありく祥雲禪寺と稱を殿后故障
將軍家より貴殿此院と稱し初願小池坊と創一為院とありに建付

原為院ハ法住寺殿の古蹟ハ滑谷妙法院と限南ハ新徳寺瓦版
と限林泉ハ東小翠巒層々として深林の中小寶閣寂々として客殿

書院優小百花の圖長谷川等伯筆玄園松小鶴の画も同筆のみを想金
極彩色之艸本の繪は屏風一雙も極彩色にして其等伯の筆之

生涯の奇事ありて世に比類あり

月輪

今の名備あり南東福寺境内の地名あり一は條殿傳領の地
道家ハ禪法と傳光明寺ハ建く昆沙門文安寺ハ高跡と

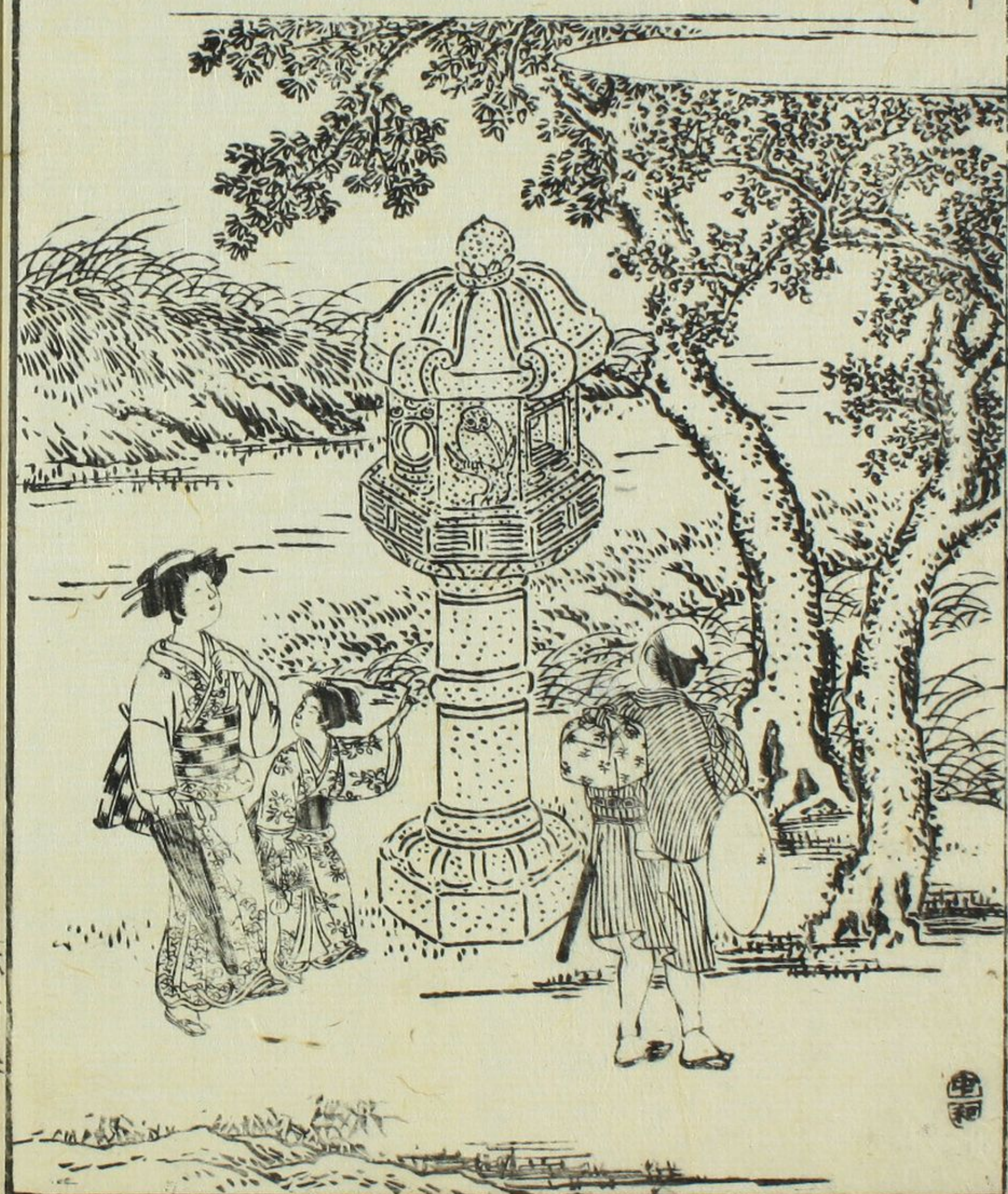
創開ハ大徳とあり愛宕山の隱小聖一團作と傳光明寺ハ
外と稱小徳トあり愛宕山ハ隱小聖一團作と傳光明寺ハ
今今東福寺の境内あり

東福寺四至文 弘安三年 寺敷山課事 限東月輪殿堀路通 限西法性

塊 限南溪川 限北東北院田端 弘安三年 聖一團作 遷化の年あり

東福寺
三尊寺
燈爐

原は世の
悪七を
糸の
旧屋の
は燈
又其に
よりあり
しとや
は東
ゆふく
ゆふく
ゆふく
ゆふく
ゆふく
ゆふく



慧日山東福禪寺ハ初九條殿の別荘ありて地名は月輪と號し

四條院淨宇嘉禎二年月輪禪定兼實公の師孫光明寺道家公

禪法宗師入りの聖一國師と傳へて岡山と當山草創して同男

鎌倉將軍頼經公頼嗣之兩代の時諸伽藍悉成就塔頭五十餘箇寺

境内の林泉洛南の妙境ありて東の山は光明寺と號け通之橋は法堂と

常樂堂の向ふあり額に普明國師の筆橋下の楓葉洛陽の春觀之選伴湯

の額は無準の筆衆寮と梅檀林といふ額同筆龍吟水耳露水の山の東南

小あり洗玉瀾の通之橋の溪川とありて偃月橋は原虎嘯橋といふ方丈と龍吟

昂宗の向ふあり今の橋は慶長八年十月 仁叔孝公尼首座再興 子松林の通之の東林といふ法堂の額

潮音堂は無準の筆妙雲閣の山の額ありて足利將軍義持公筆の思遠池と

山の麓は蓮池といふ壺價軒方丈の書院の外是橋は五人堂の南洗玉瀾の末小

架は二老橋は五人堂といふ寺の向ふあり五社宮の鎮守ありて成就堂といふ

十二重石塔は藤丞相道家の神託といふと建る摩訶阿彌の旧跡は芬陀利華院

東隣の空地より墓の鎮守の傍あり山地主神並に三重塔の傍あり
 張より善明寺の内小岡山塔あり常樂菴より額の後光明寺殿あり
 五ヶ所山古跡名所多し塔頭は次下小著次

東福寺什寶

大政官牒

當山境内四至文

從光明寺殿下
 贈岡山寺一

藕絲加衣紗衣

壹頂

。神明より岡山國師(附属)尺
 蜀紅錦包物一片

。後水尾院帝御寄附
 菊貼錦包物一斤

。櫻所院帝御寄附
 唐乘宝篋一重

左神宮龜甲御襪子

岡山
 感得 斤

岡山自讚頂相

一 幅

聖一和尚之四字

光の寺より
 兼修公奥書

壹幅

維摩像顧愷之筆

壹幅

跋陀婆羅像 名舟筆

壹幅

顏輝筆

十幅

牧溪筆

二幅

内季昭筆

二幅

張即之筆

十一幅

吳道子筆

四幅

顧愷之筆

壹幅

同 佛光國師贊

壹幅

無準和尚筆

十六幅

殿下道家公台額

壹幅

岡山寺一國師筆蹟六幅

持明院太上皇宸翰國師筆一幅

月輪殿家進狀

一幅

惠日山圖雪舟筆

一幅

東洲和尚 宋人
 岡山法子

貳幅

釋迦像 吳道子筆

壹幅

左右支殊普賢 同筆

貳幅

佛鑑禪師自画讚頂相

壹幅

左右樹之鳥 同筆

貳幅

釋迦文殊普賢思恭筆

壹幅

竹樓記圖 陳季昭筆

壹幅

岳陽樓圖 同筆

壹幅

醉翁亭記圖 同筆

壹幅

兼天寺額 無準筆
 筑紫之

壹幅

方丈額 張昂之筆

壹幅

旃檀林額 同筆

壹幅

十六羅漢像 可翁筆

十六幅

五百羅漢像 北殿司筆

五十幅

鐵拐王蟾 同筆

貳幅

涅槃人像 同筆

壹幅

北殿司筆

百十幅

雪舟筆

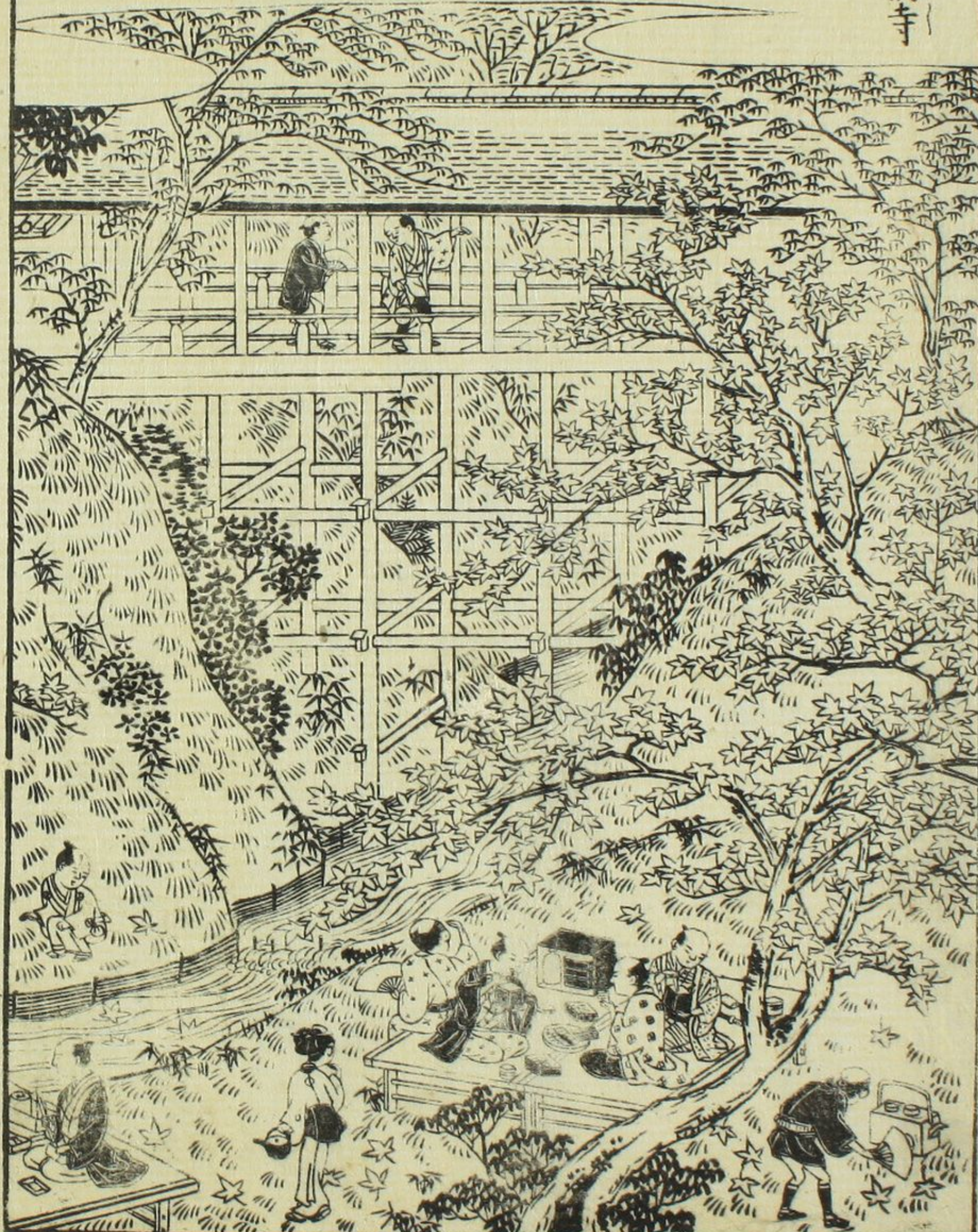
二十幅

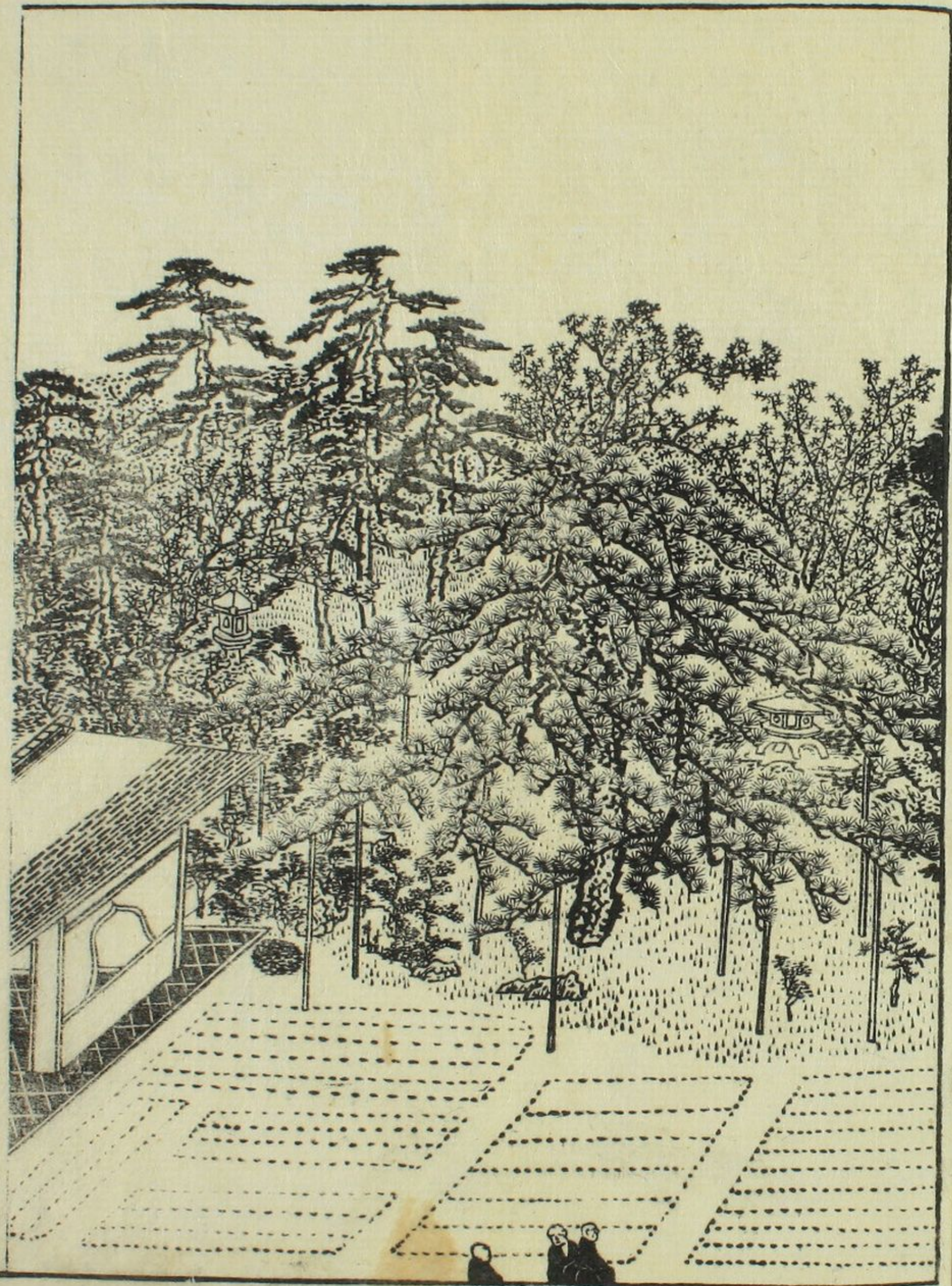
通天橋觀楓
 霜染丹楓蕭寺秋
 蒼々林霽夕陽幽
 通天橋上凭欄望
 一道清溪帶錦流
 瀬尾教延

ちり
 又小通人
 名とえ
 相模の
 りとちん
 橋と
 あま
 かやせ
 おり
 伴若殿



東福寺
 通天橋
 觀紅楓





惠日塔頭
とんげん丸
靈源院



不二菴
遺愛石



猶帶龍宮
氣自惺佳
人遺愛真
中庭石其
萬古歸無
朽松是千
年一撈青

東海澤菴



印



圓光院

惠日塔頭
 尋宗院
 自然居士墳



白砂

州

笑未至秋已醉

松客竹堂題



釋文

君不見、蓬萊之山在海中、靈秀之氣鍾、異石、水噴、苔蝕、千年
餘、峯巒怪奇、如刻畫、造物偷之、出入間、天吳、海若、皆嗟惜、肥
州、太守好事者、愛此、劇於青娥眉、上有孤松、蟠鬱、虬龍之形、下
有百卉、點綴、瑤瑤之姿、安排、玉盤、置清池、日照、中峯、生紫煙、浮
嵐、滴水、清漪、漣、始傳、此石產、蓬萊、還道、蓬萊、在眼前、高軒置
酒、車馬來、滿堂、賓客、皆回頭、也、畔石、遂為、寺中有、向誰為、其主、相
雪、曾知、故太守、問胡、名遺、愛、太守、惠政、人不、諉、上人、一日、摩沙、石
色、依舊、蒼松、根、君不見、岷山、隨波、碾、載久、龜龍、刺鱗、甲、豈如、良安
靈、雲、上、雲物、衛護、千百劫、齧、啣、字、改書、
笑未至秋下幹、松客竹堂題、

寬永二十年朝鮮信使申濡字君澤竹堂其稱也此篇其自書押法
難讀今就真跡縮臨併附釋文按似紫煙之下脫一句然真跡亦
如是不可考也姑俟博雅云 松室杜氏識

有序合不錄

林道春詩

巨掌辟開華岳膏飛為一朵玉芙蓉只看
湖口九峯異何用陳朝三品封怪石早聞供
佛印名山曾愧對周顛按問道愛點頭否
頃向生公堂下逢石名道愛故云
寬永二十年十月中佳

羅山夕顏巷史

林春齋詩

奇石玲瓏淨几間主人家見小孺頑靈雲一
朵觸膚寸素岳巖根滿惠山
寬永癸未孟冬日

春齋向陽子

湘雪禪翁出遺愛石者非谷太守細川茂尚公之所寄也考形怪狀自然然而然惟夫匪造化一尤物邪可謂戒和尚希代之寶也慧嶺靈岫崑墟層城崢嶸屹几蘧出間足以資幽居出諦散奇章之嗜平泉之戒袖中東海心裏蓬萊可併按矣去歲韓使申濡及東都羅山其因甚齋品藻斯后以扇潤色三子者已撰各探得龍珠被餘其鱗甲余又奚言雖然如言于魏榆化於穀城者波之適祖我之同姓良寧孟后古之遺愛也况禪公對之需有所據豈用國讓為哉迺擬十韻之狂斐以續貂而己

一拳空湖后萬古小仇池水匯連三島雲
晴秀九疑危峯鋒刃競峭壁画屏奇鶴
怪巢松剡龍思潛岸涯神功加白玉鬼斧
削青磁徐出兜明洞似遊五岳伎德嶠曾
在此佛日既相移覓句追換軼留圖觀郭
聖荀除元亮逕又被遠公麾遺愛為僧寶
傳觀要盡期

三州泉心兜明狂客后丈出涉筆於凹凸
巷之詩便堂

杜氏倣書

ちんりの山より書をよめおのちをせりやうたてりて細川友成の
大身に志す一巻を巻く久しきものよめいりるにや
大なる身はうらむる今願光為の作はしる山の盆石をまへり

花は久し〜とてふかふかしたまをきつゝ（昔）昔もやあつしよ五柱の
 ねりつゝ世の人をうけつゝいふ〜とて伯父あつ〜とていふ人毎うの指ふ
 かなむのま大そこもきつゝあつ〜とて〜の空に知〜とて〜とて〜とて〜
 ま〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 一層の〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 あつ〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 海川あつ〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 聲愈〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 初〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 花〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 孫〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜
 志の〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜

名はけん	人〜とて	孫はは	〜とて
半は〜とて	孫〜とて	〜とて	はの〜とて
いて〜とて	世〜とて	みぬ〜とて	かの〜とて
ふた〜とて	ま〜とて	形〜とて	〜とて
ま〜とて	性〜とて	志〜とて	紫の〜とて
ゆ〜とて	あ〜とて	ま〜とて	か〜とて
ま〜とて	子〜とて	性〜とて	と〜とて
あ〜とて	お〜とて	ま〜とて	あ〜とて
あ〜とて	お〜とて	ま〜とて	あ〜とて

海泉為景卿

秘書と藩監集陰

さ〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜

薩中紅言其生理

あ〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜とて〜

東福塔頭
莊嚴院



印

獅子巖
緝眼星懸
威百獸赤
毫焰起照
群主





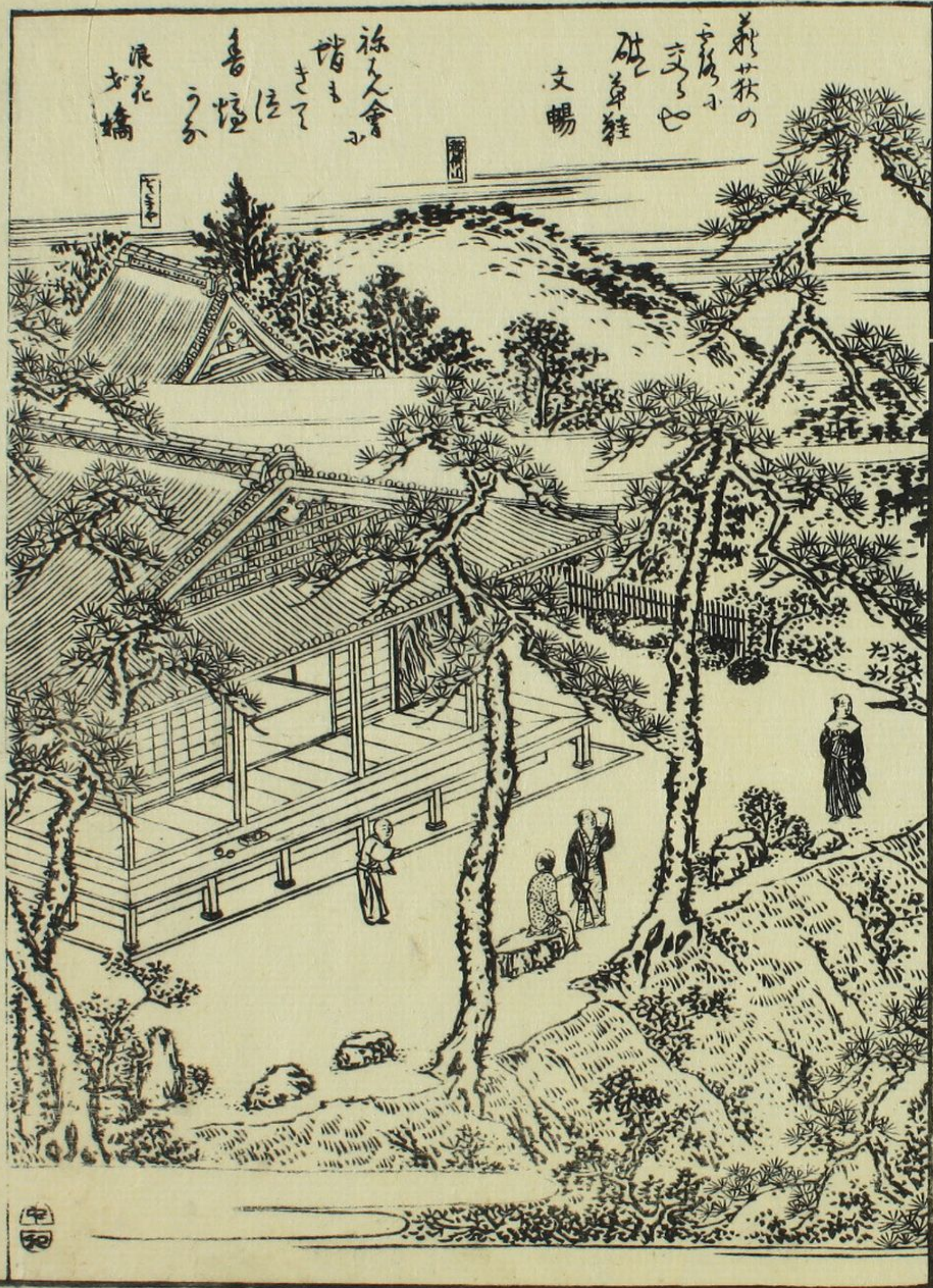
庄



惠日塔頭
南昌院



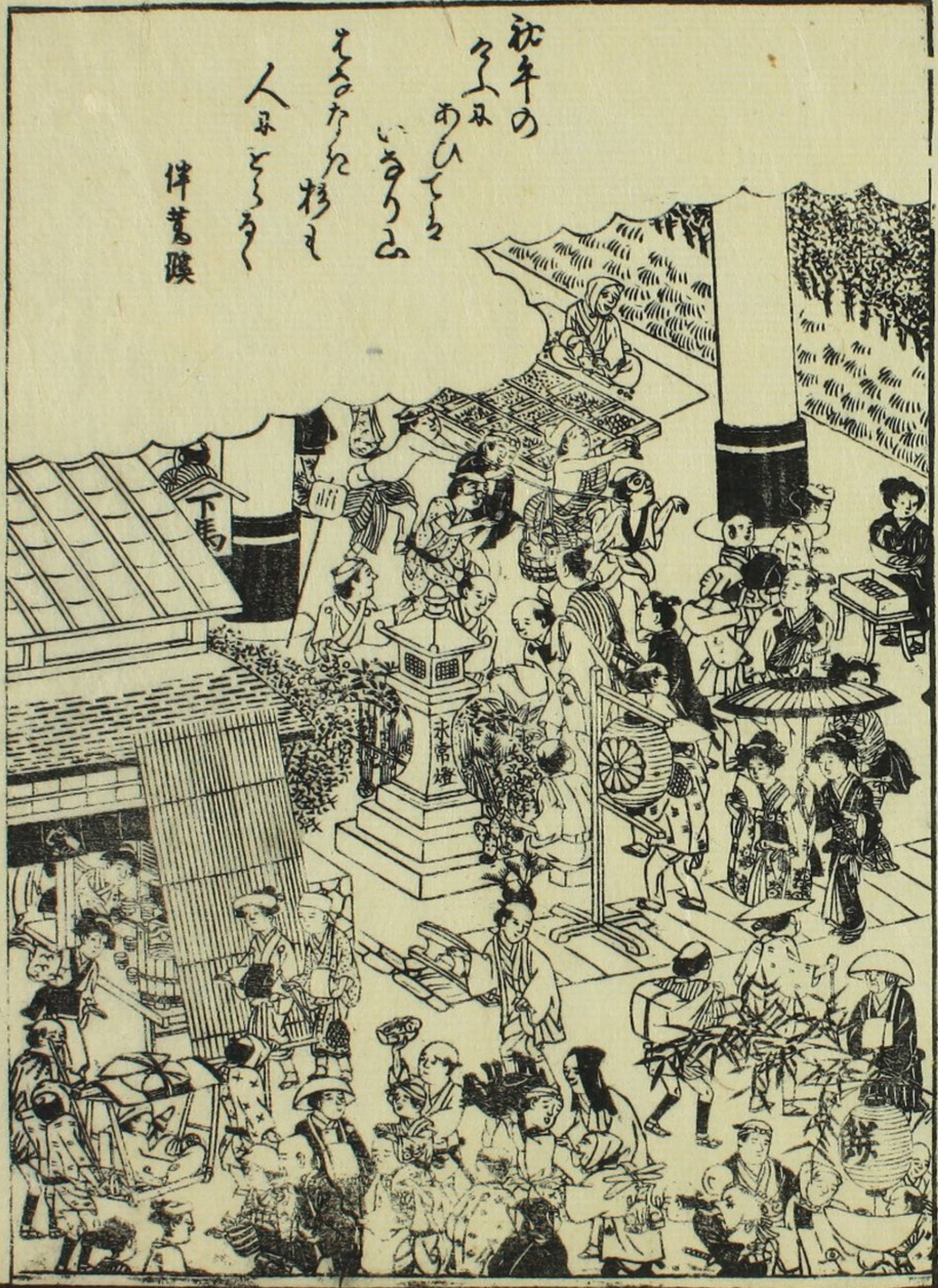
林三十一



新林の
 文暢
 破草鞋
 文暢
 祿人會
 皆も
 喜壇
 浪花
 女橋



東福寺
 南明院
 後成卿墓
 日息女墓
 業仲墓
 北殿司墓
 祿人傳
 月五



初年の
 人
 伴
 影

初年の
 影



三十四

深州里
墨深
花魁



林三十五

味會
微暈
夜禽
呼
花影
朦朧
村妓
墟
伏水
客舫
須早
發
苗
漫醉
商夫
鶴橋
木太
淳



固

伏見山今山城府一名松原山

伏見の妻と麻の湯とやかりけの居れ萩のうへ乃落 定家

帰しと心秋の田面れ色はくは松のみとけと心あかり 家隆

八月十八日ふくみゆりありて人くらけ

所集 朝そと松原の杖風ふゆりけきく月出りたり 伏見院

伏水の霸跡と文祿二年豊太閤初く城と管轄入監官佐各河内守

瀧川豊前守佐友駿河守水野忠之助石尾與清也殿后慶長八年

七月晦日石田三成が叛逆して金吾秀秋守喜多秀家は城を攻り河州永原

の兵卒款通しては城に城將を居内藤彦から城外て兵名瓜永

業輝次今昔廢田園とる川く松花をばさく弥生の盛る遠近人あふ

遊宴次特と字治見月見園風色幽妙ありて絶佳の名區と

字治白く松さく陰れ花菜の那 信徳

大名の字瓜松乃とけけ 心秀

林三三六

月見せんぬーみの珠れ捨廊 去来

水寒し生駒にけくまの水 移牛

山河存舊色林樹競芳菲荒苑彈丸盡 梅華仙

空看春鳥飛 多田夫屋相連古壘間幼兒繞五歳 全

能説破三韓 高臺見陳跡倚杖日黄昏空谷多年恨 全

梅溪と城山の北より五弟太所福壽菴大龜谷八科嶺とて初集の清香

四方小菴と若華霜葩艶くく瘦枝小花婉々たりまは瓜賞

題咏萬斛の香瓜儲く天下のま小魁とて東坡の辞あり

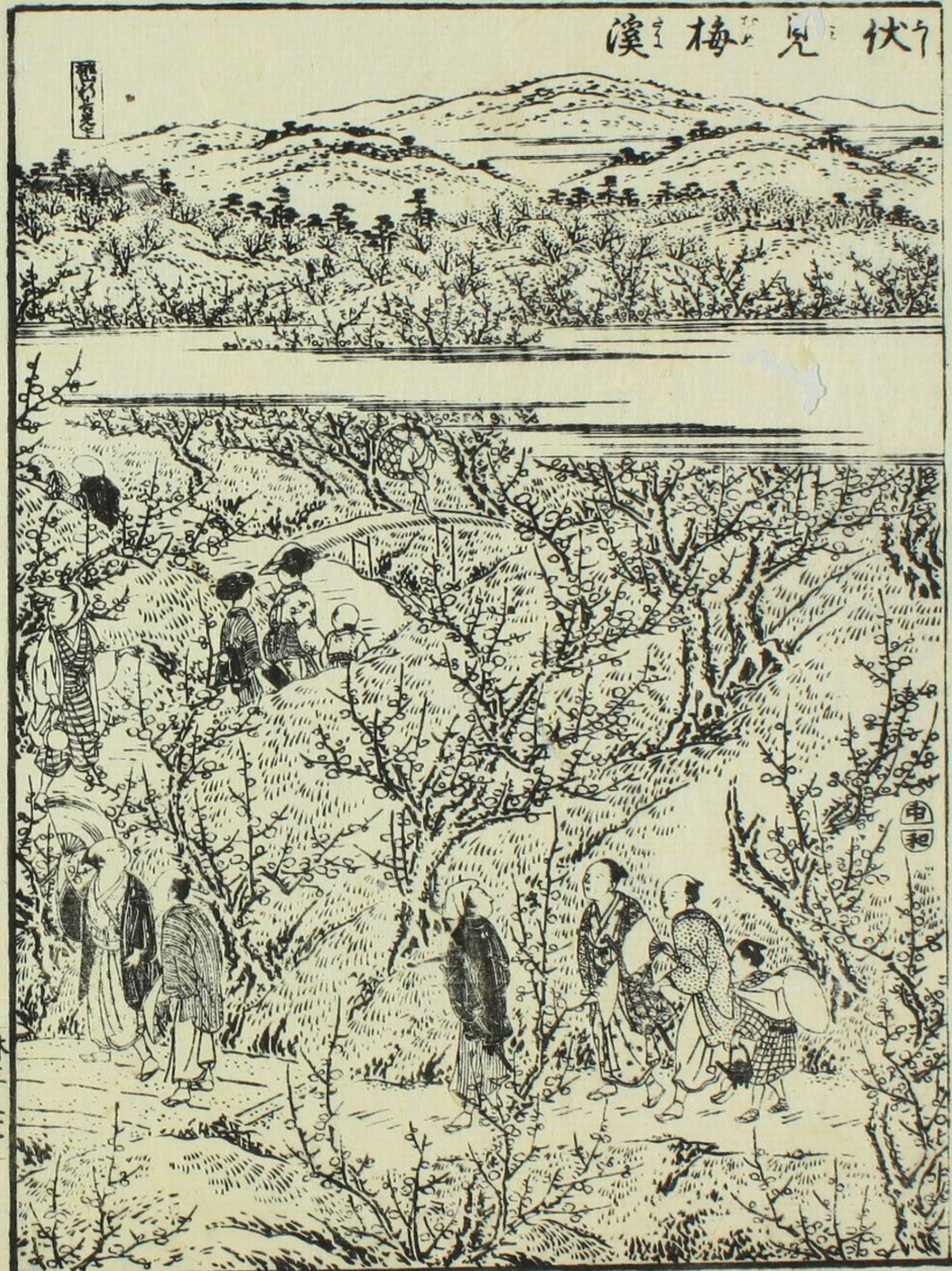
風香雪白大龜溪千樹梅花東復西 龍公義

若使林連知此地孤山春靜銷幽栖

荒丘新壘奮金湯路入梅花春渺茫 六如菴

齊是羅浮林下夢笑拋一盞醉猿郎

梅遠近岸す巻く小す巻く 蕪村



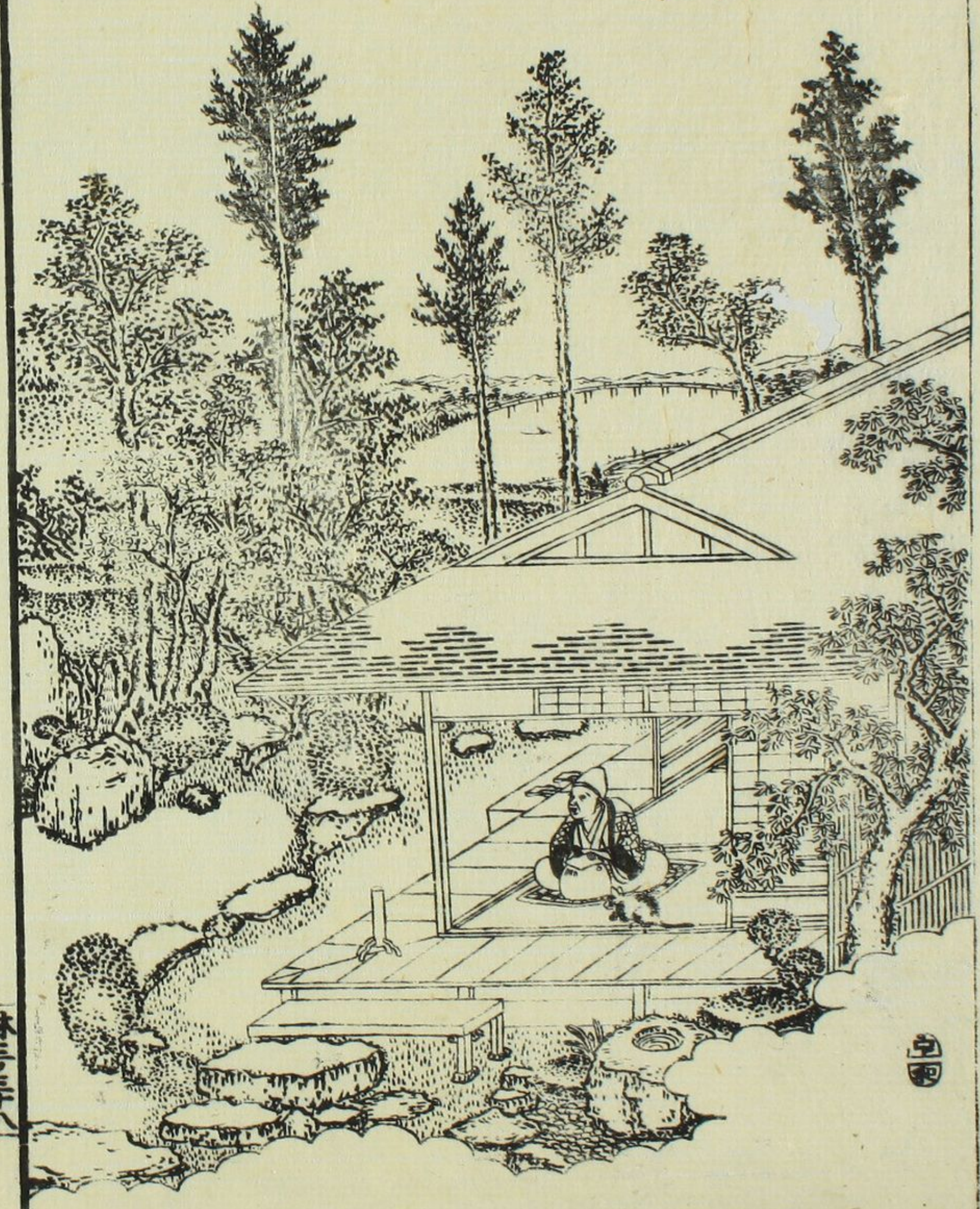
龍徳菴

小堀遠州作

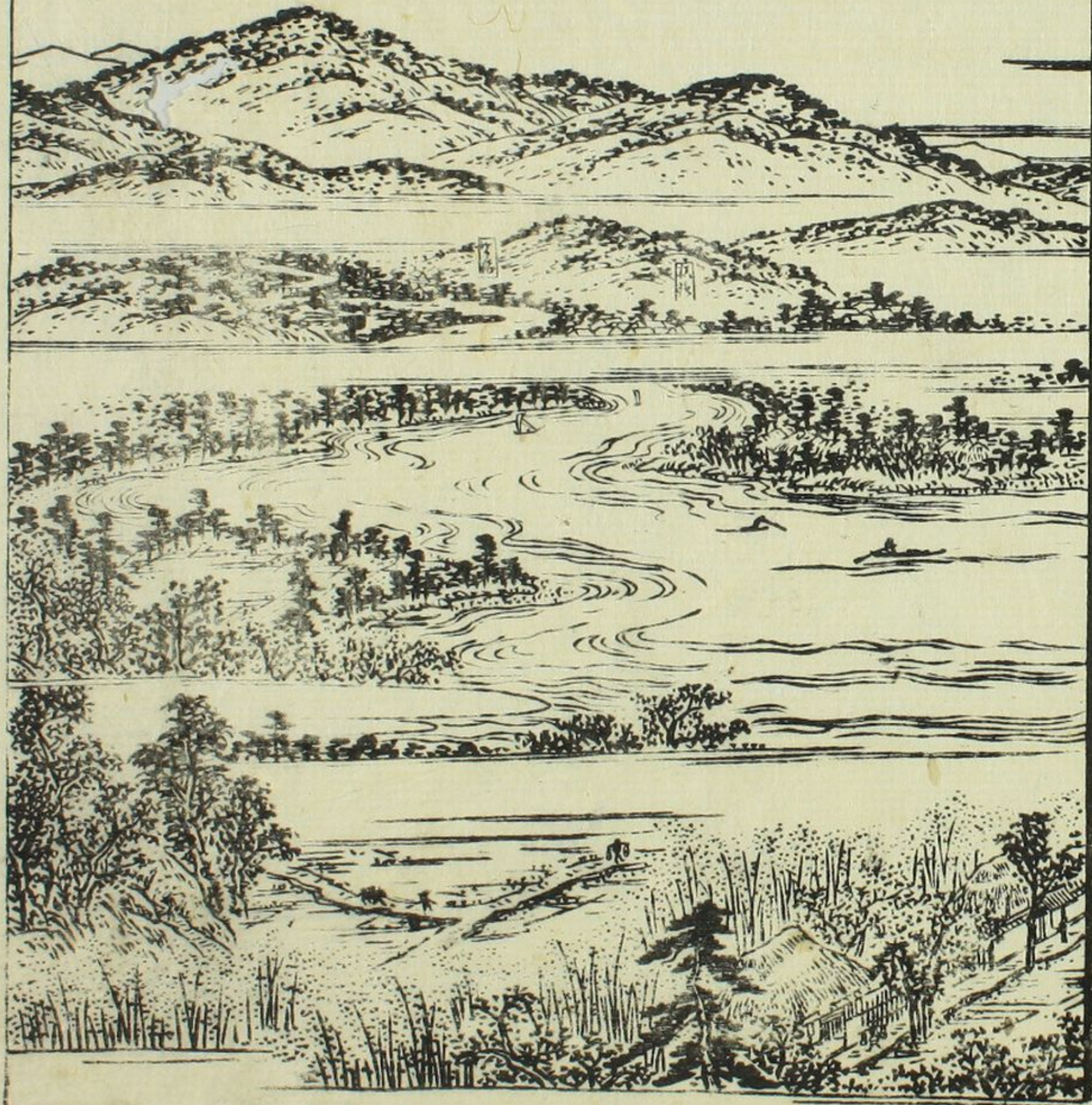


伏水

林三平八



兔道舟中
 綠水青山
 一色秋濯
 纓詞客棹
 孤舟興來
 欲咏滄浪
 曲又恐蘆
 洲驚白鷗
 州廬



伏水
 雲庵

至菴本尚の
 岡基みく
 門の額い高
 りをり



梅の香やとれ月夜の面白く
仇と見せしむ報とるこり人車
 子おらう人子 薫るや 梅花
 糸神のつら神さうはむめの花
 眼のさめる伏水のむめれさうりうを
 梅う香やふも葛屋も勅くうを
 むめのさおあのみかううおさやう
 各うみー衣のいとむれや梅の月

か
 子代

全

日
 二柳

半
 更
 嘯と

惟
 然

定
 務

都林泉名勝圖會卷之三 終

林三聖終

掛

